

問答形式による、「最終版」作成に向けての重要論点整理

③「(中国) 江南」→「伽耶 (新羅)」→「百濟 (北方)」系倭人の渡来と政権化 (倭国→日本国) の実相?!

I:とにかく、これまで、『日本書紀』の受け止め方について、ある程度知ることが出来ました。実際の我が国の建国がどのようになされていったのか?その辺りが、改めて問われてきますよね?

D:まあ、そういうことにはなりますが、「縄文時代」はともかく(皮肉にも?これについては、不毛な?対立的論争はない?!),「弥生時代(紀元前8世紀以降?)」になると、いわゆる「倭人(種)」が、朝鮮半島南部や列島各地に集住し始めます!問題は、その「倭人(種)」が、どのように我が列島に移住・定着し、その建国?をなしていったのかということになるかと思いますが、私は今、それは、時代順的には「(中国) 江南系」→「伽耶(新羅)系」→「百濟(北方)系」と変遷していったのではないかと、大枠では受け止めているわけです?!

I:つまり、その三つの勢力(渡来系倭人)が、波状的に?、列島各地に渡来・進出してきたということですね?

D:そういうことですが、もちろん、そのように明確に区切ることは出来ないと思います!しかし、主力?という意味では、まさにそういうことだったのだと思います?!ただ、現時点で最も把握(解釈)が難しいのは、この「伽耶(新羅)系」→「百濟(北方)系」の移り変わりの実相なのですが、残念ながら、「記紀」は、その部分を一番量している(隠している?)ようなのです!

I:もし、そうだとしたら、何故、「記紀」は、その部分を量している(隠している?)のでしょうか?

D:当然、その部分を知られたくないということでしょうが、裏を返せば、その部分に大きな秘密(真実?)が隠されているということだと思います!実は、それが、②で紹介した「応神」の創作(→「神武」「崇神」「神功皇后」のトリプルspin?)であり、その部分の真実?が大きな鍵を握っているということですか?!

I:改めて、それは、どういうことだったのですかね?

D:まだまだ明確に、そして、具体的には何とも言えない部分もありますが、一つは、「淡海三船」の暗示を介して?、そのことの可能性を類推しているということになります!もちろん、個々には様々な事実(←研究成果)が示されているわけですが(古墳の分布や発掘物の検討等)、その全体的な俯瞰が難しいということですか?!

I:それについて、何か有用なヒントというか、新たな手掛かりというようなものがないのでしょうか?

D:それについては、既に私なりの解決策?として、「兼川晋」という人と「石渡信一郎」(及び彼の後継者と自認されている「林順二」「仲島岳」という人達)、そして、「藤井耕一郎」という人の研究成果を整合的に受け入れることとしていますが、もう一つ、その土台(根拠の源)としては、「関裕二」という人の、まさに膨大な研究成果(著書)があることは言うまでもありません(残念ながら、最近では商業主義?に傾いてはいる?)!

I:と言われても、あまりにも茫漠?としていて、私には、どういうことなのか、さっぱり分かりませんが?

D:それはそうでしょうが、その中で、一番のポイントが、「応神天皇(第15代)」の正体(出身地とその系譜)と、言わば実質的な?政権者である「継体天皇(第26代)」の正体(出身地とその系譜)の解明かだと思います!とりわけ、その両者が兄弟なのか、そうでないのか(百濟系王族?)?あるいは、「応神」が、「百濟系」なのか、「新羅系」なのか?そこら辺りが、もう少し解明されれば、「記紀」が量している(隠している?)真実が見えてくるということです!もちろん、最終的には、そこに、「蘇我氏」と「藤原氏」の関係も関わってきます?!

I:ということであれば、それが、最初に述べられた記紀神話、とりわけ「高天原神話」の内実(投影されているもの!)につながっているということにもなりますか?

D:すごい理解力?ですね!まさに、そういうことであろうと考えています!要は、持統・藤原政権(記紀編纂者)は、「乙巳の変」(645年)によって、蘇我氏(本宗家)を滅ぼし、「白村江の戦い」(663年)や「壬申の乱」(672年)、そして「天武」の治世を経て、悲願の「倭国(再?)統一」(701年に「大宝律令」制定→「日本国」の「倭国併呑?」)を果たすのですが、その間の経緯は、当政権にとっては、あまり知られたくないプロセスであった?!端的に、彼らに、いわゆる「正当性」「正統性」がなかったということですか?!

I:流れ、そしてその理由は、改めてよく分かりますが、具体的に、その「正当性・正統性」というのは、一体何なのでしょう?基本的には、ある政権の「正当性・正統性」というようなものは、後(次)の政権者が、ある意味かようにも操作?できるものなのではないのでしょうか?実際、他ならぬ中国の歴代王朝は、そうしたことを繰り返してきたではありませんか(→革命・讖緯思想→「国史」の編纂)?

D:まあ、そういうことも言えますが、多分?その立場に立ったのが、ごく最近のことであれば、その説得?には、かなりのエネルギーと時間を割くのではないのでしょうか?!しかも、前政権とはまったく関係のない政権であれば、逆にあからさまに、前政権の不当性(悪徳?)をあげつらうと思いますが、それ自体が捏造されたものであれば、一方では、その真実性を過剰に演出し、他方では、そこに可能な限りの不整合を散りばめる?まさに、全体が分からないようにするためです?!それが、「記紀(日本書紀)」の役割であった?!(当時の「国史」の編纂というものは、ある意味そういうものだったのではないのでしょうか?!